

# ワクチン開発で連携協定 新型コロナ、大阪府など6者



会見する吉村大阪府知事(右)と松井大阪市長

「早ければ9月に実用化」  
今回の連携協定の締結により、関係機関が連携し、新型コロナウイルス感染症の予防ワクチン、治療薬などの研究開発に向け、大阪府、公立大学法人大阪、府立病院機構、大阪市民病院機構など6者で連携協定を締結したと発表した。記者会見した吉村洋文知事は、予防ワクチンについて「早ければ7月から治験を開始し、9月には実用化を図りたい」と説明。年内にも10万〜20万単位でワクチンを投与できるの見通しを示した。

松井一朗市長は、「大阪府の医療関係者のトップクラスが集まり、新型コロナウイルスのワクチン、治療薬などの実現に向け、治験や臨床研究の早期実施や研究開発の情報共有に取り組む。行政としても専門家の意見に沿って対応していきたい」と語った。公立大学法人大阪の西澤良記理事長は、大阪大学医学部附属病院が大阪で開発されたワクチンについて、製薬

企業と協定を締結したことを説明。ワクチンの治験、臨床研究に早々に着手したい考えを示した。大阪大学研究科では、コロナの予防投与研究などにも着手していることを明らかにし、「エビデンスを積みながら予防効果を発現できるようにしたい」と展望した。

かかるが、大阪府市、病院機構、大学それぞれが協力することで、ワクチン開発のスピードは飛躍的に早くなる。国への許可や財政的支援も府市として求めた

同日、ワクチン開発を進めている大阪発バイオベンチャー「アンジェス」が、大阪市立大学病院と新型コロナウィルス予防ワクチン

開発に関する連携協定を締結したと発表した。予防ワクチンの治験、臨床研究の効率的な実施体制を整備し、早期実用化に向けた開発を進める。

機能不良が起りα・シヌクレインが蓄積・凝集したものと考えられた。また、日本と台湾の計105人の孤発性パーキンソン病患者のDNAを解析したところ、プロサポシンの遺伝子で、サポシンド領域の近くにエクソン領域の近くにあり、イントロン領域で2カ所の遺伝子多型の頻度が多いことが分かった。

サポシンド領域の遺伝子変異を持つマウスを調べると、パーキンソン病に似た運動障害の症状を示し、脳の黒質の神経細胞が減少していた。

これらの結果から、サポシンドの遺伝子変異や遺伝子多型がパーキンソン病に関与していることが分かった。今回の研究により、オートファジーなど多くの重要な機能を持つライソゾームに

関与するサポシンの異常がパーキンソン病に関与していることが明らかになった。

順大などグループ  
順天堂大学神経学と川崎医科大学、台湾の長庚大学の国際共同研究グループは、ライソゾーム病の原因となるプロサポシンの遺伝子がパーキンソン病に遺伝子変異を導いたマウスモデル動物として有用であることが分かった。

パーキンソン病発症に遺伝性代謝疾患であるライソゾーム病の病態メカニズムが関与する可能性が指摘されているが、その詳細は分かっていなかった。そこで、国内の290人

の、サポシンド領域の遺伝子変異と発症する病態との関係は不明だった。

サポシンドの遺伝子変異が原因となり、プロサポシンがライソゾームにうまく運ばれず、小胞体に停滞することで、ライソゾームの

単離、培養することに成功。POM細胞マーカーの発現が維持されていることも見出した。

眼の再生医療は、iPS細胞から作成された角膜上皮細胞シートの臨床研究が開始されているが、角膜内皮細胞や角膜実質細胞などの細胞をiPS細胞から分化誘導する方法は確立されていない。

今回の研究によって、POM細胞を由来とする角膜内皮細胞や角膜実質細胞など、眼科領域の再生医療に

## 小児分野で連携大学院協定 薬剤師育成や共同研究など

昭和薬科大学と国立成育医療研究センターは、3月27日付で連携大学院協定を締結した。周産期・小児期分野の薬剤師を育成するため、昨を昭和薬科大学の客員教授に迎え、成育医療に関する最新の知見を学べるようになる。また、学生が成

育医療に関する最先端の技術・設備などを持つ同センターで大学院の研究指導を受けられるようになる。同センターにおける共同研究に大学院生が参加し、研究の発展に貢献することも目指す。

既に両者は昨年3月に、国内で不足する薬学における周産期・小児分野に対応できる薬剤師育成を目的と

た学術交流協定を締結しており、協定内容の一つとして、大学院生が同センターの職員による講義を受講したり、研修に参加する

ことで高度な専門知識を習得できるようにするなど、教育・研究面での協力体制を強化することも盛り込んでいた。

一方、昭和薬科大は3月26日付で国立医薬品食品衛生研究所と連携講座に関する協定も結んだ。

一方、国衛研における共同研究に昭和薬科大の学生が参加し、研究の活性化も狙う。

一方、昭和薬科大は3月26日付で国立医薬品食品衛生研究所と連携講座に関する協定も結んだ。

一方、国衛研における共同研究に昭和薬科大の学生が参加し、研究の活性化も狙う。

一方、昭和薬科大は3月26日付で国立医薬品食品衛生研究所と連携講座に関する協定も結んだ。

一方、国衛研における共同研究に昭和薬科大の学生が参加し、研究の活性化も狙う。

## 育成医療セ、昭和薬大

昭和薬科大学と国立成育医療研究センターは、3月27日付で連携大学院協定を締結した。周産期・小児期分野の薬剤師を育成するため、昨を昭和薬科大学の客員教授に迎え、成育医療に関する最新の知見を学べるようになる。また、学生が成

育医療に関する最先端の技術・設備などを持つ同センターで大学院の研究指導を受けられるようになる。同センターにおける共同研究に大学院生が参加し、研究の発展に貢献することも目指す。

既に両者は昨年3月に、国内で不足する薬学における周産期・小児分野に対応できる薬剤師育成を目的と

た学術交流協定を締結しており、協定内容の一つとして、大学院生が同センターの職員による講義を受講したり、研修に参加する

ことで高度な専門知識を習得できるようにするなど、教育・研究面での協力体制を強化することも盛り込んでいた。

一方、昭和薬科大は3月26日付で国立医薬品食品衛生研究所と連携講座に関する協定も結んだ。

一方、国衛研における共同研究に昭和薬科大の学生が参加し、研究の活性化も狙う。

一方、昭和薬科大は3月26日付で国立医薬品食品衛生研究所と連携講座に関する協定も結んだ。

一方、国衛研における共同研究に昭和薬科大の学生が参加し、研究の活性化も狙う。

一方、昭和薬科大は3月26日付で国立医薬品食品衛生研究所と連携講座に関する協定も結んだ。

一方、国衛研における共同研究に昭和薬科大の学生が参加し、研究の活性化も狙う。

## iPS細胞の樹立成功 POM細胞単離に有用

大阪大学大学院医学系研究科の林竜平寄附講座教授とロート製薬などの研究グループは、ゲノム編集技術によって眼周OM細胞を誘導すると、その中にPOM細胞が含まれることを明らかにした。SEAM中

で誘導されるPOM細胞を

単離、培養することに成功。POM細胞マーカーの発現が維持されていることも見出した。

眼の再生医療は、iPS細胞から作成された角膜上皮細胞シートの臨床研究が開始されているが、角膜内皮細胞や角膜実質細胞などの細胞をiPS細胞から分化誘導する方法は確立されていない。

今回の研究によって、POM細胞を由来とする角膜内皮細胞や角膜実質細胞など、眼科領域の再生医療に

応用可能な細胞の分化誘導研究の促進が期待される。

今回の研究によって、POM細胞を由来とする角膜内皮細胞や角膜実質細胞など、眼科領域の再生医療に

応用可能な細胞の分化誘導研究の促進が期待される。

今回の研究によって、POM細胞を由来とする角膜内皮細胞や角膜実質細胞など、眼科領域の再生医療に

応用可能な細胞の分化誘導研究の促進が期待される。

今回の研究によって、POM細胞を由来とする角膜内皮細胞や角膜実質細胞など、眼科領域の再生医療に

## 阪大などグループ

大阪大学大学院医学系研究科の林竜平寄附講座教授とロート製薬などの研究グループは、ゲノム編集技術によって眼周OM細胞を誘導すると、その中にPOM細胞が含まれることを明らかにした。SEAM中

で誘導されるPOM細胞を

単離、培養することに成功。POM細胞マーカーの発現が維持されていることも見出した。

眼の再生医療は、iPS細胞から作成された角膜上皮細胞シートの臨床研究が開始されているが、角膜内皮細胞や角膜実質細胞などの細胞をiPS細胞から分化誘導する方法は確立されていない。

今回の研究によって、POM細胞を由来とする角膜内皮細胞や角膜実質細胞など、眼科領域の再生医療に

応用可能な細胞の分化誘導研究の促進が期待される。

今回の研究によって、POM細胞を由来とする角膜内皮細胞や角膜実質細胞など、眼科領域の再生医療に

応用可能な細胞の分化誘導研究の促進が期待される。

今回の研究によって、POM細胞を由来とする角膜内皮細胞や角膜実質細胞など、眼科領域の再生医療に

応用可能な細胞の分化誘導研究の促進が期待される。

今回の研究によって、POM細胞を由来とする角膜内皮細胞や角膜実質細胞など、眼科領域の再生医療に

## これから薬剤師に必要とされる重要なスキルを症例から学ぶ!

実践的ケーススタディ  
薬剤レビュー  
Medication Review  
薬剤師のためのプロセスガイド 第2版 日本語版

Timothy Chen, Rebekah Moles, Prasad Nishtala and Ben Basger 著  
一般社団法人上田薬剤師会 訳

オーストラリア薬剤師会が作成した薬剤レビュー(薬物治療レビュー)学習のためのケースブック「Case Studies in Practice Medication Review: A Process Guide for Pharmacists (Second Edition)」の日本語版。

B5判/244頁/定価4,000円+税

薬事日報社 書籍のご注文は、オンラインショップ (https://yakuji-shop.jp/) または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。

当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp http://www.yakuji.co.jp/

薬剤レビュー(薬物治療レビュー)とは、薬物治療に関連する問題を薬剤師が評価し、患者固有の情報を収集・分析して医師や患者等に伝達する体系的なプロセスです。

具体的な25の症例を基に  
①症例情報  
②情報収集  
③情報処理  
④情報伝達  
というステップで  
薬剤レビューのプロセスを  
学ぶことができます。

▲詳細はこちら

▲詳細はこちら